

令和7年度
都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
議事要旨

1. 日時

令和8年2月25日（水）14：00～16：00

2. 出席者

＜委員＞森本章倫座長、糸久正人委員、金森亮委員、中村英夫委員、中村文彦委員、藤原章正委員（WEB 参加）、三好庸隆委員、森川高行委員

3. 議事

- ・都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集公表報告
- ・望ましい都市像の実現に向けた自動運転技術の活用に関するシンポジウム 開催報告
- ・動画「自動運転社会の可視化」（早稲田大学 交通・都市 森本研究室作成）
- ・自動運転に取り組む先進自治体の取組みについて
- ・国土交通省自動運転社会実現本部について
- ・本日の論点

4. 議事概要

（事務局より説明を行ったところ、委員からの意見は以下のとおり）

＜委員からの主要な意見＞

（1）都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集公表報告

- 今後、アジア諸国をはじめ海外に向けて発信し、議論をリードしていくことも考えられる。

（2）動画「自動運転社会の可視化」（早稲田大学 交通・都市 森本研究室作成）

- 3D 動画について、コミュニケーションツールとしてもよいし、設計のための条件整理にも使えると思われる。動画にあえて危ない要素を入れて SP 調査的に使うこともできるのではないか。
- 自動車の速度が制限されると、不便になってしまうように見えるかもしれない。自動運転社会になるとこんなに便利になるという、ワクワクするイメージが持てると良い。
- 車いすやベビーカーなど、歩行領域の自動運転が街の中にどう入ってくるのか等、楽しみが示せるとよい。

（3）本日の論点

- 現場では、自動運転社会を期待している人が多くなってきていると感じる。より良い共創環境を作り、関係者のマッチングができるようになって行くと良い。

- 自動運転社会になると、コンパクトシティでなくても人が暮らせるという考え方もある。むやみな都市の拡散を防ぐという考え方を強調していくことが必要では。
- 自動運転化によってコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造が崩れるまちも出てくる可能性がある。既存の交通と新しい交通のバランスをどう考えるのか。都市構造を壊さないよう、今後のモータリゼーションの行方を考える必要がある。
- ブキャナンレポートは、モータリゼーションに伴い、車を都市としてどのように受け止めるかを示しているが、自動運転に置き換え、自動運転を都市としてどのように受け止めるかを考えても良いのではないか。自動運転をどのように利用して欲しくて、どのように使われていて、どのような課題があるのか整理いただきたい。
- 市民参加や利用者とのコミュニケーションを通じたまちづくりは、ブキャナンレポートが提示された時代には無かった。これからは市民と対話しながら、まちづくりのプロセスを再びデザインする必要がある。
- 渋滞が減少するなど乗合交通の良さをもっと強調できるとよい。都市部での議論になると思うが、不特定多数の乗合交通を運輸行政としてどうするか、タクシーが補完するのか。そういう議論も今後あってよいのでは。
- ロボタクシーやマイカーのレベル4はすぐに到来すると思っている。定時定路線のバスに乗らず、流しも含めたロボタクシーが街中に溢れているような将来をどのように防ぐか検討が必要である。
- 自動運転社会にあっては3つのマネジメントが必要と考えている。1つ目は道路利用マネジメント。2つ目はTNC (Transportation Network Company) のマネジメント。3つめはカーブサイドマネジメント。この3つのマネジメントをしっかりと考えていく必要がある。
- 乗降場のあり方に関する議論はまとめていく必要がある。カーブサイドは、幹線道路等の街路上のどこで乗降場を確保できるかという線的な観点の話であり、モビリティハブは、高密度な都市においてミーティングポイントをどこに作りどのように乗降させるか、面的な観点から乗降場を確保するという話である。駐車場の話も重要であり、新たな都市計画施設として位置づけていくことが考えられる。
- 信号連携や専用道路に目がいくが、モビリティハブの配置の仕方、設計の在り方についても手を入れる必要性を感じている。
- 自治体にヒアリングした結果があるが、都市側で自動運転を上手に使うための自治体側の工夫もぜひ入れ込んでいただきたい。自動運転車両を走行させるだけの実験ではなく、実装するための実験について、道路管理者や交通管理者等が実施していることを国側で積み上げて整理いただきたい。自治体レベルでも議論の場が必要で、課題解決に向けたサポート体制が国としてあるとよい。

- 自治体の取組みの横展開によって協調領域がどこかがわかるとよい。
- ポイント集を公表したが、技術の進歩は速いため、今後どうやって段階的にポイント集へ反映していけるかが重要ではないか。
- 社会実験で仮設物を置いて走行させることは実施していたと思うが、駅前広場を改変するとトライアンドエラーが出てくる。初期コストや運用コストは実施しないと見えないことも多く、ハード及びソフトの支援も検討が必要ではないか。
- 自動運転について計画に書けないという自治体に関して、維持コストがわからないから入れられない、B/C を考えると入れられないという声がある。
- サイバー攻撃などのリスクも鑑みると、都市インフラと自動運転が協調する際に、どのような車両でも入れることの是非に係る議論や、必要な対応を講じるべきではないか。